

令和3年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名[長井市立長井北中学校]

【研究の要約】

学校教育目標及び道徳教育目標の達成のため、道徳教育の核となる道徳の授業力向上を図る。そのために、道徳に関する著書が多く、各方面で道徳の授業づくりの指導に当たっている講師を迎え、「道徳授業づくりの研修」を行った。並行して、講師の著書から学び、授業づくりのための研修を学年ごとに継続してきた。

1. 事業の内容(具体的実践事例)

(1) 《道徳の授業に関するアンケート》(10月実施)

道徳の授業で悩んでいることや疑問に思っていることを、先生方にアンケートで尋ねたところ、「ねらいの設定の仕方に悩んでいる。」「生徒の考えを広げ深めるには、どうしたらいいかわからない。」「予想していない反応が生徒から返ってきたときの対応の仕方がわからない。」「評価の仕方に悩んでいる」等の答えが返ってきた。そこで、それらのことを取り入れた研修を計画した。

(2) 《講師の著書の内容の研修》(10月実施)

講師の鈴木先生が、著書の中で提唱している「道徳の授業づくりのための4つのステップ」について資料を用いて職員全体で研修した。

「考え・議論する」道徳とは(学習指導要領解説から)

「特定の価値観を押し付けたり、主体性を持たず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育の養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。

○魅力的な道徳授業を作るために教師が心がけたいこと

- ・教材に出会った時、生徒の姿に接した時、芸術作品に接した時の感動する心を大切に
にする。
- ・道徳授業で取り上げるテーマについて、国語辞典で調べたり、本などでいろいろな人の
捉え方を学んだりして、教師自身の考えを深めておく。
- ・地域の素材、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応、現代的な課題など、授業の題材
にできそうなものを集めてファイリングしておく。

○道徳授業づくりの4つのステップ

【ステップ1】 その教材ならではの「ねらい」を設定する

ア 教材を熟読し、価値項目のどんな側面が描かれ、何を考えさせるのかキーワード
にしてみる。

イ キーワードについて、教師自身が「知っているつもり」を捨て、時には批判的に
読むなどして、考えを深める。

ウ 考えさせたいキーワードを入れて、その教材ならではの「ねらい」を設定する。

【ステップ2】 教材に興味を持たせる（問題意識を高める）

ア 教材を構成要素に分ける。（題名、挿絵、写真、グラフ、地図、会話文、地の文等）

イ 着目した構成要素を効果的に生かす。

【ステップ3】 思考を刺激する発問を工夫する

ア 生徒が知っていることを問うだけの発問になっていないか、自問自答する。

イ 子どもが、考えたくなる発問を工夫する。

- 意味を問う（例…自由とは何ですか）
- 比較させる（例…比べて気づいたことは何ですか）
- 対立を生む（例…この言葉に賛成ですか）
- 選択させる（例…あなたならどの行動を選びますか）
- 挑発する（例…この言葉はおかしいと思いませんか）等々

【ステップ4】 身近な問題として意識づける

ア 学級や自分自身の現状を認識させる。

- ・教材で素晴らしい言動が取り上げられていたら、学級や自分自身は、そのような言動がどれくらいできているか考えさせる。
- ・教材で批判されるべき言動が取り上げてあれば、学級や自分自身にそのような傾向はないか考えさせる。

イ よりよい生き方につながる方法を考えさせる。

- ・グループや学級全体で検討させることにより、多様な方法や考え方を学び合わせる。そこから、自分にも出来そうなものを見つけさせる。

【参考文献】『新しい道徳授業の基礎・基本』（鈴木 健二氏 著）
『ワンランク上の活用術』（鈴木 健二氏 著）
『道徳授業をおもしろくする！』（鈴木 健二氏 著）

(3) ≪「第1回道徳授業づくり研修会」≫（11月4日実施）

Zoomを使って、先に学んだ4つのステップについて、具体例を交えながら、「道徳授業を楽しく！」のテーマで講話をいただいた。

◇「あったほうがいい？」（大分市教師用道徳指導資料集「中学校」編）を用いた「ねらい」づくり、発問づくり、実践への意欲付けの演習

◇ポスターや写真を用いての「小さな道徳」の作り方の研修

◇アンケートにあった先生方の悩みや疑問に対して、講師の先生からアドバイスをいただいた。

(4) ≪学年ごとに「授業アイデアシート」を用いた話し合い≫（12月～1月実施）

研修に基づいた授業づくりと授業での生徒の様子との交流を学年ごとに継続するとともに、「第2回授業づくり研修会」に向けて、題材選びや授業アイデアの持ち寄りを行った。

- 【授業題材】・1学年 「私に宇宙のプレゼント」（D生命の尊さ）
・2学年 「わたしのせいじゃない」（C公正、公平、社会正義）
・3学年 「片足のアルペンスキーヤー」（A希望と勇気、克己とつよい意志）

(5) <<第2回「道徳授業づくり研修会」>>

(1月実施)

【1年】「私に宇宙のプレゼント」

ねらい

- ・病と闘う「私」の姿について考えることを通して、生命の大切さと生きていることの喜びについて考え、授かった命を大切に生きていこうとする心情を育てる。

教材に興味を持たせる工夫

- ・腎臓の実物大に切り抜いた画用紙を使って、腎臓の働きを確認し、生きるためになくってはならないものであると理解させた。



思いを刺激する発問

- 「喜びの涙と笑顔の裏側で、大切な人を失い、悲しみの涙を流した人たちがいることを私は決して忘れない」という言葉には、どのような思いが込められているのだろうか。
- 「命」を授かり「生きていく」とは、どのようなことだろう。
～前週の学習で学んだ、自分の命も親から授かったかけがいのない命であることを想起し、自分と関連付けて考えられるようにした。

<p>〔生徒の感想〕今自分は当たり前で授業を受けているけど、それは当たり前じゃなくて、この人のように腎臓がなかったり、苦しんだり悲しんだりしている人が、この世にはいることを学んだ。</p>	<p>〔生徒の感想〕 どうして今まで自分が生きることができたのかを考えて、お父さん、お母さん、今まで命をつないでくれた人のおかげだと思った。命を大切にして、これからも過ごしていきたい。</p>
--	--

【2年】「私のせいじゃない」

ねらい

- ・いじめの傍観者の責任について考え、世界で起こる問題について知ることを通して、公正な社会の実現に向けて、社会や集団の一員として主体的に関わっていこうとする意識を持たせる。

教材に興味を持たせる工夫

- ・キーワードの確認をした上で、イラストを使いながら資料の状況の説明を行った。

社会的問題を考えるためのヒントカード

班で出した意見を写真にメモし、発表。

思いを刺激する発問

- 本当にこの人たちのせいじゃないのでしょうか？この人たちに関係ないのでしょうか？
- 写真の状況は、「わたしのせいじゃない」「わたしたちに関係ない」問題なのでしょうか？
- 「わたしたちに関係がある」点は何でしょう？

B機関銃を手に警戒に当たる少年兵

【紛争の原因】

- 資源(レアメタルなど)の奪い合い
- 民族や宗教の違いによる争い

【子ども兵士が生まれる理由】

- 貧しさから自分で志願する
- 誘拐され兵士にさせられる

何かしらの違いから争いごとが起きる。
争いごとなどから貧しくなると次第に巻きこまれていく。

私たちに私たちに
→ 同じようなことが言える。(小さなケカ)

↓

でも私たちが貧しくなると学校にも行けていない。

(生徒の感想) 写真の少女は私たちと同じように学校へ通うべきだと思うけれど、お金の関係だったり何か理由があったりして働かなければならなくなったのだと思う。公平な社会にするために、寄付やボランティアなど、自分達にもできることはあると思うので、それらに進んで参加することは大切だと思った。

(生徒の感想) 飢餓に苦しむ人に食べ物を届ける団体もあるので、そこに募金するなど、何か協力できることはあるはず。「誰かがやる」「えらい人がやる」ではなくて、一人一人が少しの協力をすることで公平な未来になる可能性はすごく増えると思う。「自分は無関係だ」という人が少しでも減ってほしい。

【3年】「片足のアルペンスキーヤー」

ねらい

- ・夢に挑戦し続けている三澤さんの生き方から、その原動力となっているものについて考え、目標を実現するために希望と勇気をもって実行し、困難に屈せず粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

教材に興味を持たせる工夫

- ・事前アンケート「将来の夢」を提示することで、自分に引き付けて考えられるようにする。
- ・三澤選手の映像を写すことで、教材に興味を持たせ、三澤選手の原動力を知りたいという思いにつながるようにした。

思いを刺激する発問

- 三澤さんが競技人生を続ける原動力となっているものは何でしょうか。

【講師から】

研究授業及び本校の道徳授業について

教師間で道徳について議論することで、道徳の授業づくりに意欲的な雰囲気生まれて、よい方向に授業づくりが進んでいる。

今後さらに授業の質を高めるためには、教科書教材を効果的に活用していきたい。そのために、授業で追究したかったことは何か、そのために何を工夫したのか、その効果はあったのか、見えてきた課題は何か、次はどんな手立てをとるか、を明確にして授業実践を積み上げていきたい。

今回の授業では、腎臓の形の画用紙で生徒の興味を引き出したり、動画を活用して資料内容を実感させたり、キーワードの意味を最初に確認して考えさせたい内容を明確にしたり、世界とのつながりを考えるためのヒントカードを与えたりと様々な工夫が見られた。さらなる質の向上を目指すためには、興味関心を持たせるだけでなく、問題意識を高める導入の工夫や出てきた意見をどう深めていくかの思考を深める展開の工夫、生徒が次に考えることのヒントになるような構造化された板書の工夫を考えていきたい。

授業力を高める3つの視点

① 教材研究力 ② 授業構成力 ③ 授業展開力

このうち「①教材研究力」と「②授業構成力」については、「授業づくり4つのステップ」を活用して鍛えてほしい。



③ 授業展開力について

対話とは、人の考えを聞いて、考えを刺激されて出た自分の考えを伝え合うことである。そのために、「全員参加の授業になっていたか」「思考が持続していたか」「子どもの発言が活かされていたか」授業後、振り返る必要がある。また、帰りの会など短い時間を使っての「小さな道徳」を実践して、授業展開力を磨いてほしい。



(生徒の感想)自分は一つのこと失敗したとき、失敗した理由を考えようとしません。失敗にこだわり自分を責めることが多いと思います。三浦さんのように、失敗の理由を探し、次の挑戦に向かって何度も立ち直ることは普通の人には難しいと思います。成功するまで何度でも努力し続ける力を見習いたいです。

2. 研究成果(○)と課題(●)

- 道徳の授業づくりについて、その手順や注意点を明確にすることができ、それまで本校職員が抱いていた疑問や悩みの解消につながった。
- 道徳の授業に対する生徒の意欲が高まり、「考えてみたい」「友達の意見が聞きたい」という思いが感じられ、道徳の授業が活性化してきている。
- 学年全体で道徳の授業を作ろうという気運が高まり、帰りの会で「小さな道徳」を取り入れる職員も出てきた。
- 授業で使用したワークシートや映像資料などの授業材料の蓄積が進んでいる。
- 講師の先生から指摘のあった、課題意識を高めるための導入の工夫、出てきた意見を生かして考えを深める授業展開力、板書の構造化については更なる研修が必要である。
- 授業材料の蓄積だけでなく、「小さな道徳」の材料についても互いに紹介し合って蓄積し、授業技術の向上を図っていきたい。
- 今回の研修で得た成果をそれぞれの教科の授業づくりに生かす方法も追究していきたい。

<参考資料>

【本校3年生75名を対象にしたアンケート結果】

【1：あてはまる 2：どちらかというにあてはまる】の割合 (%)

自己肯定感	質問内容	伸び(10月-4月)	10月達成率	4月達成率	全国
(1)	自分には、よいところがあると思う	+7.1	88.1	81.0	76.2
(2)	将来の夢や目標をもっている	+8.5	84.1	75.6	68.6
(3)	ものごとをさいごまでやり遂げてうれしかったことがある。	-7.3	88.6	95.9	84.2
(4)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	-7.4	69.6	77.0	65.9

規範意識	質問内容	伸び(10月-4月)	10月達成率	4月達成率	全国
(5)	人が困っているときは、進んで助けている。	-5.9	92.8	98.7	88.5
(6)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	+2.7	100.0	97.3	95.9
(7)	人の役に立つ人間になりたいと思う。	-1.4	97.2	98.6	95.7

学校生活	質問内容	伸び(10月-4月)	10月達成率	4月達成率	全国
(8)	自分で思っていることや感じていることをきちんと言葉を使って表すことがある。	+14.3	95.3	81.0	75.2
(9)	自分とちがう意見について考えるのは楽しい。	+7.2	85.5	78.3	74.7
(10)	友達と協力するのは楽しい。	-1.5	97.1	98.6	93.3

学校生活	質問内容	伸び(10月-4月)	10月達成率	4月達成率	全国
(11)	地域や社会をよりよくするために何をすべきか考える。	-3.8	59.7	63.5	43.8